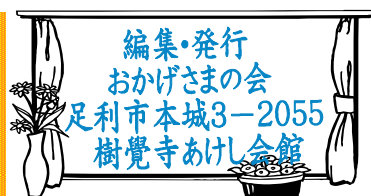


おかげさま



「門徒物知らず」。以前はよく聞かれた言葉らしいけれど、最近はトント(ローン・レンジャーのお伴^{とも}じゃないよ)聞かれなくなった」ことばですね。

調べてみると、いろいろ

「門徒物知らず」とは、
仏^{かえり}を顧みないために、土
関心を持たず、死者儀礼
宗門徒の姿を、他宗の信
批判^{や ゆ}、揶揄する言葉。元々
禅宗^{ぜに}銭なし、浄土^{じょう}情なし」
句からきていると言われ

一時^{いっとき}、「門徒もの知ら
物忌み知らず」や「門徒
が、それが誤って伝えら
宗の法話などで語られた
らず」より前に「門徒物
していたことはなく、近
る言葉として生み出され
とは、真宗門徒の特徴の一つではあるが、「門徒物知らず」とは、物忌みを
しないことだけでなく、様々な真宗門徒独特の
あり方を表した言葉である。

「門徒物知らず」という言葉が文献に見られ
る例としては、1786年の『譬喩^{ひ ゆ づ く し}尽』と1857年初
演^{ね ず み こ も ん は る の し ん が た}の歌舞伎「鼠小紋東君新形」が確認されてい
る。
(出典：小学館『日本国語大辞
典』)

使われる場面としては、教義の問題というよ

ろ詳しく書かれています。

阿弥陀^{いちぶつ}仏^{き え}一仏に帰依して、他の神
地の神仏に関わる儀礼や風習にも
などに関わる習俗にも従わない真
者が「仏教の作法を知らない」と
は「門徒もの知らず、法華^{ほね}骨なし、
という各宗派を揶揄^{じくち}する地口の一
ている。

ず」という言葉は、本来は「門徒
物忌みせず」という言葉であった
れたものであるという説明が、真
ことがある。しかし、「門徒物知
忌み知らず」などのことばが存在
年になって「物知らず」に対抗す
たと考えられる。物忌みしないこ

「門徒物知らず」

というけれど





りは、葬送儀礼や仏事作法など習俗に関わる場面で、地域社会との交流の中で生まれる言葉である。他宗の信者から見て当たり前と思える習俗に従わないことを指摘する時などに用いられる。あえて対立するよりは他宗の仏事にはその教義に合わせ、自分の家の仏事には浄土真宗の教義通りに行うと考える門徒も多い。

葬儀の場などで、他宗の属する親戚や年長の方などが、真宗の方法とは異なった方法、習俗や迷信に基づくしきたりなどを指導する場合があるが、教義を持ちだしてあえて対立するよりは、「門徒物知らずですので」と自ら認

明 石 狸



9月29日、栃木南組の組事務所がある宇都宮観専寺において、門徒推進員養成第9期栃木南組連続研修会修了式が行われました。樹覚寺からは、鶴巻達久さん、鶴巻周子さん、中村昇さん、渡辺幸雄さんの4人が参加し、平成23年9月から12回の研修に参加し、鶴巻さんご夫妻と中村さんは皆勤で、渡辺さんは精勤で、4人とも無事修了されました。

藤井純恵東京教区教務所長（築地本願寺副宗務長）より修了証と栃木南組連研修了記念門徒式章を手渡れました。おめでとうございます、そして、ご苦労さまでした。いただいた記念の門徒式章は栃木南組の連研が始まったとき修了者に記念になるものとデザインしご本山の許可を得てお作りしたものです。勿論非売品で



す。ちなみに皆勤の3人は京都本願寺で行われる「門徒推進員中央教修」参加の手続きをしました。日本全国から集まる研修会ですが、同じ式章は栃木南組連研修了者以外誰も持っていないですよ。

記念の式章の欲しい方は、次回の連研に奮っ

てご参加下さい。



めることによって、穏便にその場を収めて指導には従わないことがある。そのように門徒自らが「門徒物知らず」という言葉を便利に使う場合もある。

浄土真宗では門徒という。他宗では檀家という。それが前提で説明がなされていますね。同じような立場で、単に宗派が違う

から呼び方も違う、ということではないでしょう。以前、難解な仏教用語も英訳すると専門用語を使わず説明しようとするのでかえって理解しやすいということがあった。「檀家」は「^{だんか}a supporter (of a Buddhist temple)」(支持者、援助者)の語がよく当てられています。「門徒」は「a disciple」(門弟、門葉、弟子)と訳されますが、ハワイや北アメリカにおいては「a member」(仲間、構成員)をよく使います。

お分かりのように、檀家は、サンスクリット語の布施(^{ふせ}ダーナ)をする人「danapati(ダーナパティ)」の音写である檀那(^{だんな}旦那)、檀越(^{だんおつ}に語源を持つ言葉で、その意味合いからサポーターが当てられています。門徒は、念仏一門の徒輩という意味合いでディサイプル、念仏の、往生浄土の仲間という意味でメンバーが使われています。

このような説明に行き当たりました。

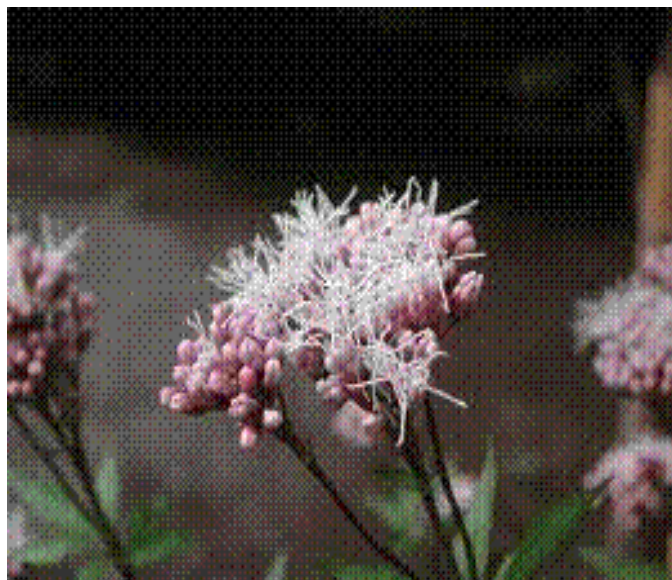
江戸時代に幕府の政策で“家の宗教”が決定されるということがありました。(「^{じだんせいど}寺檀制度」)。この時の呼び名が、家＝檀家、寺＝檀家(檀那)寺なんです。それ以来400年、“家の宗教”は固定されたままです。これは全く悪いことだとはいませんが、そこに主体的な“個人”の選びはないのですよね。私たち浄土真宗の先達・先祖は、もともと“個人”で親鸞聖人が顕かにされ、蓮如上人が広めてくださった「浄土真宗」を選んだんです。

個人として浄土真宗を選んだ人を「浄土門」に集う「徒(ともがら)」という意味で「門徒(もんと)」といいます。

つまり「檀家」は因習(^{いんしゅう})によって伝統されてきた“寺と家”との関係。「門徒」は、「^{しゃく}釋〇〇」という法名と同じように、「^{ほうみょう}浄土真宗」を主体的に選びとった者の名告りです。「宗旨は浄土真宗、宗派は浄土真宗本願寺派、私は真宗

あけし あれこれ

フジバカマ (藤袴)



門徒さんにいただいたフジバカマが、秋の気配がしてくると、淡紅紫色の蕾をつけています。蕾みの時は、ちょっと色づいているのですが、咲き出すとほんとに淡い色ですし、小さな花が依り合っているのですが、なんとも目立たない渋い花です。なぜこの花が、秋の七草なのかと

いつも思いながら、おざなりにして来ました。今回調べてみて初めて、大切な花だったことを知りました。

フジバカマ(藤袴・蘭草・香草)

キク科の多年草。奈良時代に中国より渡来した。関東以西の河原や土手に自生するが、最近はいちじるしく減少し、おおかたは観賞用に栽培される。草丈は1メートルぐらい、葉は3つに深く裂けている。初秋に、茎の先端に淡い紅紫色の花が群がって咲く。乾燥した葉はいい香りがあり、昔は頭髮洗いに使ったほか、利尿の効果がある薬用植物。

生えたままの草にはほとんど香りはないが、乾燥すると香りが強まるという。昔、心ある武士は、戦いに参加する時には鎧や兜にこのフジバカマの葉をしのばせ、汗まみれのからだの匂いを消していたという。そんな理由から、山上憶良はこの草を七草に選んだに違いない。



萩の花 尾花葛花 瞿麦 (なでしこ) の花

女郎花 また藤袴 朝貌 (ききょう)